

それな

奈良市立富雄第三中学校 1年 飯田 実梨

学校で私がよく聞く言葉、それは「それな」である。

このような言葉を若者言葉というらしい。私はこの若者言葉に少し違和感を感じる。なぜなら、この言葉で会話が終わってしまうことが、よくあるからだ。私はなぜ、このような会話をすぐに終わらせてしまう若者言葉がはやっているのか、考えてみた。私は、SNSが関係していると思った。例えば、ショート動画というジャンルの動画がある。このショート動画の時間の長さは最大で三分ほどということが調べて分かった。他にも、最近の曲の長さも三分から四分程度のもが多く、若者が好む K-POP やボーカロイドも短尺化の傾向があることが分かった。二時間ほどある映画もインターネットで結末を調べてから映画を見る若者もいるようだ。

若者は日常的に時間の長さが短い動画や曲などを、見たり聞いたりしているから、脳がその長さになれてしまっているのではないかと私は考えた。時間の短い動画や曲になれてしまうと、勉強や作業への集中力が続かないようになってしまうのだ。これにより、会話をすぐに終わらせてしまうような若者言葉がはやっているのではないかと考えた。私はこの状況を変えるために社会全体での取り組みが必要だと思う。例えば、幼い子供への SNS の制限を国全体で定めることや、子供が本や芸術にふれる機会をもっと増やすことが大切だと思う。

私は小学五年生のとき、仲の良い子とクラスが離れてしまい、さびしい思いをしていた。しかし、ある物語の主人公に出会い、その主人公の気持ちになって楽しんでいた。小説の中の世界で非日常的な体験をしている気持ちになって、とても楽しかった。やがて、さびしさも、なくなっていき良い小学校生活を過ごせた。本や小説を読み、想像をふくらませることは本当に大切なことだと思った。想像力は、大人になっても、相手の気持ちを想像したりするために大切だ。もし、私が本ではなく、SNSにさびしさをぶつけていたのなら、SNS中毒になっていたかもしれない。本なら、いろいろな言葉を知って、会話や自分の気持ちを伝えるのが上手になったり、何が言いたいのかを分かりやすく伝えられるようになったりする。若者言葉も言葉の種類の中の一つだ。けれど、他の言葉とは少し違う。若者言葉は時代が変わるとともに、生き物のように変わっていく。本来、若者言葉とは、会話をスムーズにするために若者がつくった言葉である。しかし、「それな」や「あーね」などの会話がプツリと終わってしまう若者言葉は少しさびしく感じる。けれど、若者言葉は生まれては消えていくので、「それな」や「あーね」が消えてしまっても少しさびしく感じる自分がある。

「それな」などの会話をすぐ終わらせてしまう若者言葉を言う回数を減らして、本などから得た言葉を使い、自分の感情などを上手に表現し、会話をはずませると、毎日がより充実して楽しくなる。SNSだけでなく、本を読み、想像をふくらませることはとても大切だと私は思う。これから、次の会話にもつなげたり、楽しい会話にもなる新しい若者言葉が生まれたらいいと思う。若者達は、スマホばかり見るのではなく、本などを読んで言葉をもっと知っていくべきだ。